

第5講 キャリアステージに対応した幼稚園教諭に 求められる資質・能力の構造化

【学習到達目標】

- ・キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力を説明できる。

1. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力の構造化

幼稚園教諭として不易とされる資質・能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した幼稚園教諭の資質・能力を明確化し、講座の学習目標の分析と構造化を図り、資質・能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルについて考える。

幼児教育コーディネータは、幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む）における教員として在職年数が、12年以上の方を基本的に対象としている。

従って、12年以上の幼児教育の経験があるということは、岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）が適切である。

この指標における【資質充実期】並びに【資質貢献期】を基本として、幼児教育コーディネータに必要な資質・能力を示すと次のようになる。

(1)保 育（保育構想，保育実践，評価改善）

- ①自園の課題，幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し，他の教員に広めていくことができる。
- ②幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め，日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- ③各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど，保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- ④自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について，他の教員に伝えたり，適切に助言を行ったりすることができる。

- ⑤自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。
- ⑥他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。

(2)教育環境の創造（幼児理解、生活の展開、発達課題）

- ①様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- ②継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- ③関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- ④幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- ⑤幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- ⑥幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

(3)経営分掌（学級・学年・園経営、連携・協働、危機管理）

- ①自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。
- ②自園の教育目標の具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。
- ③他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。
- ④広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
- ⑤関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。
- ⑥自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

(4)特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

- ①全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。

②幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

(5) ICT や情報・教育データの利活用

- ①自らの ICT 活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。
- ②自園の ICT や情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

(6) インストラクショナルデザイン指導力（インストラクショナルデザイン、研修成果の評価、ワークショップ、教育リソース）

- ①自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
- ②インストラクショナルデザインの第 1 原理の観点から、現実に関係する自分の学びを設計できる。
- ③e-Learning により学習がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
- ④研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
- ⑤研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- ⑥全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

2. 幼児教育コーディネータの資質・能力について教科毎の構造化

これを、各教科に位置づけ、幼児教育コーディネータの資質・能力（以下資質・能力と呼ぶ。）について教科毎の構造化を図った。

（1）遊びと文化Ⅰ、遊びと文化Ⅱ

■ 講義内容：

I-子どもの育ちの現状を踏まえながら、モンテッソーリ教育やニュージーランドの幼児教育について知識を深め、普段の遊びや生活動作、造形活動について視点を持つてみることで、適切な支援方法を考える。II-フレーベルの恩物について知識を深め、ちぎる・切る・折るといった造形活動についてあらためて考えるとともに、フランダースや OSIA が開発した行動力デゴリーについて理解し、自身の園での課題を解決する方策を考える。

■ 資質・能力：

- I - （1）幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- （2）各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- （3）様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。

(4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。

Ⅱ - (1) 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。

(2) 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。

(3) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。

(4) 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。

(5) 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

(2) 保育内容（表現）

■ 講義内容：

子どもの作品や造形指導の実態から、子どもの表現力やコミュニケーション能力、探究心、考える力の養成研究を考える。また、子どもによる紙芝居の創作(クリエイティブ・ラーニング)や、物語と音楽を組み合わせることの効果について考える。

■ 資質・能力：

(1) 幼稚園教育要領領域「表現」を幼児の発達段階に即して理解することができる。

(2) 幼児の個性に即して適切な支援をすることができる。

(3) 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を見通した造形教育を計画することができる。

(4) 創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。

(5) 全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。

(6) 個々の幼児のみならず、園全体のことを考えたうえで課題意識を表象化して、研修課題をテーマを絞り込むことができる。

(3) 教師論

■ 講義内容：

教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができればならない。そのために、幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質・能力を考える。

■ 資質・能力：

(1) 教育の先駆者の教育思想や教育方法を踏まえた教師像をもつことができる。

(2) 現代の教育方法について理解し、目指す教育方法を共有化できる。

(3) 教育目標の実現に向けた教育の枠組みの考え方を身に付けることができる。

(4) 児童中心主義の考え方の原点を学ぶことができる。

(5) 倉橋惣三の保育論を通して、幼児教育の「不易」について理解することができる。

(6) 21世紀型保育の在り方の重要な視点について理解することができる。

(7) 野村芳兵衛の保育論を通して、発達段階に即した保育の在り方について理解することができる。

(8) 幼稚園教育要領等のねらいを達成し内容を適切に指導する際の重要な点について理解することができる。

(9) 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。

(10) 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。

(4) 教育の方法・技術

■ 講義内容：

21 世紀の知識基盤社会における「学力」は「他者と協働しつつ創造的に生きていく」ための資質・能力の育成である。そのために、学習活動では、他者と共に新たな知識を生み出す活動を引き出しつつ深い知識を創造させていく経験を、数多く積ませることが重要である。また、情報化や国際化が進み、社会が大きく変化する中で、学校、そして教師は様々な変化に直面している。児童に求められる学力の変化や授業での ICT 活用など、教師はどう対応していけばよいのでしょうか。本講座では「インストラクショナルデザイン」を手がかりに、幼児教育の基礎としてのインストラクショナルデザインについて考える。

■ 資質・能力：

- (1) 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
- (2) インストラクショナルデザインの第 1 原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。
- (3) e-Learning により学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
- (4) 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
- (5) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- (6) 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。
- (7) 自からの ICT 活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。
- (8) 自園の ICT や情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

(5) 幼児理解

■ 講義内容：

幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、ケーススタディにより幼児理解の方法を具体的に提供し、様々な問題解決を通じてから理解の深化を図る。

■ 資質・能力：

- (1) 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- (2) 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- (3) 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- (4) 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- (5) 幼児の多様な発達課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- (6) 幼児の多様な発達課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
- (7) 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- (8) 幼児の理解を、エビデンスベースで理解することができる。
- (9) 主観的解釈から脱却し、他者の解釈を聞くことができる。

（６）教育相談Ⅰ

■ 講義内容：

教育相談や発達相談，子育て支援を行う意義について理解し，教育相談を推進することができるような組織づくりや計画・評価について考える。また，保護者の子育て相談等にあたる心得や態度について理解を深め，幼児が抱える課題に対して，個に応じた支援及び環境調整への配慮を考える。

■ 資質・能力：

- （１）様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え，個性を生かす指導を行うことができる。
- （２）継続的に幼児の言動を見届け，価値付ける指導を行ったり，幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- （３）関係職員や保護者等と協力して，幼児の状況を共有し，組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- （４）幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように，体勢を整えるとともに問題の未然防止の取り組みを実践することができる。
- （５）幼児の多様な発達の課題を明確にし，それに対応する方策を提案し，園の基点となって実践することができる。

現在，資質・能力というコンピテンスの育成を学校教育における広義の学力の根幹に置くように学習指導要領では位置付けている。知的な面として，安定的な認識的把握としての知識（と操作する際の技能）として，また物事について考えていくプロセスとしての思考として捉える。動機づけ的推進する面として，学びに向かう力を置いている。

それは研究面では認知的な力と非認知的力（社会情動的スキル）としてとらえられるようになった。資質・能力は教科内容に応じて異なる形で具体化される。それを教科等の「見方・考え方」としている。教科等の単元において，その目標はより長くは見方・考え方へ，さらに長期には資質・能力へとつながるので，そのことを意識して学習目標を考えることが重要である。

資質・能力はコンピテンスとしての内的傾向・態度・能力であり，教科を横断して育成されるものである。教科の内容（コンテンツ）は学ぶ順番を想定した系統性により着実に積み上げることを目指すものである。その繋がりを明示することにより，コンピテンスとコンテンツとがともに支え合う関係により学ばれる。

社会における問題解決はその両面を必要とする。内容があって解決できるが，コンピテンスが備わって新たな学びを通しての解決が可能となる。その双方はどちらが時間的に先後するのではなく，子ども時代を通してともに相まって学ばれていくのである。

この幼児教育コーディネータの養成カリキュラムは、資質・能力を構造化し、コンピテンズとコンテンツとがともに支え合う関係により学ぶように構成してある。この構成化されたことによりコンピテンズとコンテンツが繋がりが合い、相互に関係し合い、ともに支え合う関係により“新たな学びを創造”していくことができる。

3. タキソノミーテーブル

タキソノミーとは、本来、分類学を意味し、教育学で用いるときには授業で達成すべき教育目標を明確化し、その機能的価値を高めるための道具として開発された指標のことである。ここでの教育目標とは、「教材や授業活動を設計する指針」を意味し、また「教育実践の成果を評価する規準」でもある。教科のカリキュラム開発において改訂版ブルーム・タキソノミーを活用することで、開発した教材や学習活動が教科に係る知識の習得の状況や教科に係る思考力のどのような働きを表しているかを評価する際に有効であるといえる。

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン

教育目標の分類学（ブルーム・タキソノミー）

ブルームの教育目標分類学 （改訂版） （知識・技能）	改訂版ブルーム分類学（知識・技能）	認知過程の次元					
		知識	理解	応用	分析	評価	創造
1. 知識 「知識の獲得を目的とする」	知識	知識					
2. 理解 「意味の理解、内容の理解、関係の理解、応用を目的とする」	理解		理解				
3. 応用 「知識や理解を特定の状況や問題に適用して解決を図ることを目的とする」	応用			応用			
4. 分析 「知識や理解を構成要素に分解し、その関係や構造を明らかにすることを目的とする」	分析				分析		
5. 評価 「知識や理解の価値を判断し、その有用性や信頼性を評価することを目的とする」	評価					評価	
6. 創造 「新しい知識や理解を生み出すことを目的とする」	創造						創造

図 5-1 改訂版ブルーム・タキソノミー

改訂版ブルーム・タキソノミーでは、カリキュラムの教育目標を、どのような性格の知識（知識次元／内容的局面）の習得を目指しているのか、またその知識をどのように認知させようとしているのか（認知過程次元／行動的局面）の、二つの局面に分けて検討することになる。

この認知過程次元／行動的局面では、知識を学習者がどのように認知して処理するのかに着目して、その方法を分節化している。そこでは、その行動的特徴によって、「記憶する」「理解する」「応用する」「分析する」「評価する」「創造する」の6つのカテゴリーを設定している。ここに見られる各カテゴリーは、複雑系の原理に基づいて、単純なものからより複雑なものへと排列されている。認知過程次元／行動的局面のカテゴリーのうち、後半の「分析する」「評価する」「創造する」の三つのカテゴリーは高次の認知過程として位置付けられる。探究はこの段階に該当する活動である。

今回の講座においては、各講に学習到達目標並びに課題を設定している。これらの課題を表 5-1 のタキソノミーテーブルに分類する。このように、改訂版ブ

ルーム・タキソノミーという分光器を通してカリキュラムを分析するならば、カリキュラムの教育目標では、どのような性格の知識の習得を目指しているのか（内容的局面）、またその知識をどのように認知させようとしているのか（行動的局面）の、それぞれについて可視化し、カリキュラム開発者や授業者以外の第三者に説明することを可能にするという特徴を有している。



教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインのタキソノミーテーブル

表 5-1 タキソノミーテーブル

①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
再認 再生	解釈, 例示 分類 推論, 比較 説明	実行, 遂行	比較, 組織, 結果と原因	チェック 判断	生み出す 計画できる, 汎化
書く, 暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べる	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する

課題

1. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力を説明しなさい。
2. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力は、どのような活動によって向上できるかについて具体例を挙げて説明しなさい。
3. キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質・能力について、自己をメタ認知し、どの部分が不足し、その不足を補う方法を説明しなさい。